

2024 年度事業報告書

2024 年 4 月 1 日から
2025 年 3 月 31 日まで

学校法人コリア国際学園

I. 学校法人概要

1. 建学の精神

グローバル化・情報化が加速する21世紀の国際社会においては、柔軟な発想と幅広いコミュニケーション能力を兼ね備え、問題解決能力に優れた人間が求められている。

コリア国際学園は、在日コリアンはじめ多様な文化的背景を持つ生徒たちが、自らのアイデンティティについて自由に見つめながら、確かな学力と豊かな個性を持った創造的人間として国々と境界をまたぎ活躍できる、「越境人」の育成を目指す。

全ての教育活動を通じて相互の信頼と協同を深め、地域社会に根ざし、世界に開かれた国際学校として、東アジアはじめ世界の持続可能な発展に貢献する。

2. 教育理念と目指す学校像

- 1) 多文化共生／民族的アイデンティティと自尊感情を育むとともに、多文化共生社会の実現に向けた知識、技能、態度を身につけた人間を育成する。
- 2) 人権と平和／人間の尊厳と民主主義を尊重し、世界平和を希求する普遍的価値を創造するとともに、地球的視野を持ち、持続可能な社会の構築に貢献できる人間を育成する。
- 3) 自由と創造／真の自由を理解し、豊かな個性と多様性を基礎とした創造力の溢れる人間を育成する。

建学の精神および教育理念を具現化し、地域社会および国際社会に貢献する人材を育てる学校を目指す。少人数学校の特長を生かし、一人ひとりの学生の生活背景をしっかりと掴み、学びと育ちを支援し、その夢の実現に向けて共に歩む学校を目指す。来るべき東アジア共同体時代を展望しつつ、それを教育空間に先取りし、多文化共生の成功した学校モデルを提供することを社会に対する責務とする。

3. 名称 学校法人コリア国際学園

4. 住所 大阪府茨木市豊川2丁目13番35号

5. 設置する学校 コリア国際学園 中等部・高等部

6. 学科、修業年限並び定員

学科	修業年限	定員
中等部	3年	35名
高等部	3年	35名

7. 理事会・評議員会（2024年4月現在）

理事長名 金淳次

理事数 6名 監事数 2名 評議員数 13名

8. 教職員の現況（2024 年 4 月現在）

	専任	兼任	合計
教員	13 名	25 名	38 名
職員	3 名	名	3 名
合計	16 名	25 名	41 名

9. 生徒数（2024 年 4 月現在）

	1 年	2 年	3 年
中等部	10 名	9 名	14 名
高等部	20 名	20 名	21 名
合計	94 名 (56)		

()内は K-POP エンターテイメントコース

II. 教育活動状況

コリア国際学園は建学の理念に基づいて、2024 年度を「確かな学力」、「楽しい授業」、「生き生きとした学校生活」をモットに邁進する年と位置付け中途退学の発生を防止し、魅力ある学校づくりを目指してきた。

1. 楽しい授業で学力を引き上げるため、反転授業の実施、リベラルアーツの復活、科目横断的テーマ学習などに注力した。

1) 反転授業を実施し学力向上と授業雰囲気改善に向け、専任常勤教員は 1 科目以上を反転授業で実施することとし効果を見極めつつ段階的に実施幅を広めていくことにした。反転授業の定着は、生徒参加型・生徒主導型の楽しい授業・わかる授業を実現し、学習雰囲気作りに良い影響を与え今後学習成果の向上にもつながると期待できる。

2) 「リベラルアーツ科(LA 科)」を「哲学」「人間関係の心理学」「社会的起業」「職業の世界」の 4 科目を選択科目に設定し年間をとおして運営してきた。生徒の関心事の拡大、進路探索に一定の影響をあり考える力、人間関係作りの育成に資することができた。

3) 科目横断的共通テーマ学習は「アジアの平和と共生」をテーマに、外交官などの特別講演や生徒が参加する夏休みプログラムなども企画し、将来的には国連の SDGs のようなテーマをめぐるプロジェクト型の学習に発展させることを目指してアプローチしてきた。

4) 学力向上の客観的目標を持たせ、毎年成長を確認できるように、英検、韓国語能力試験、日本語能力試験(留学生)、漢検に力を入れ実力向上を定点観測することとした。

今年度は、以下の各検定試験を実施した。

- ① コリア語 (TOPIK) : 3 回 (4/14、7/14、10/13)
- ② 英語 (英検) : 1 回 (1/17)
- ③ 日本語 (漢検) : 1 回 (1/31)
- ④ 留学生日本語 (JLPT) : 2 回 (7/7、12/1)

5) IB 拡大への 1 年目とし、高 2 高 3 の全生徒が履修するようにするとともに IB-MYP 課程を新たに導入し中 1 から高 1 までの全生徒も IB を履修する方向性を打ち出した。IB スクールとしてのブランディングを確実なものにし今後 IB の全面実施に向け、探求力を中心とした学習能力、学習態度面の準備を重ねていくこととした。

また、今年度もフルディプロマを取得することができた。

6) 越境人の育成を掲げる KIS として、卒業生がアジアを舞台に大いに活躍して行けるよう在学中からアジア各国・社会との接触面を増やす任意参加型の海外研修プログラムを検討した。韓国城南市青少年財団、全羅南道教育庁の招待プログラムに生徒派遣を企画、ソウル公演芸術高校と良好な関係を築きダンス・ボーカルの夏休み研修を実施した。今後の留学制度作りの契機となる。

また、進路実績においては、延世大学・高麗大学をはじめとする韓国の有名大学、同志社大学・立命館大学などの日本の各大学に合格することができ。

7) 三学期制から二学期制に移行した。長期休暇中に社会的活動や補習に力を入れる考えであったがうまく広がらなかった。また、授業時数・成績処理・進路などで不都合が出ている。今後、精査する必要がある。

2. 楽しい学校作りで生き生きと成長するように取り組んだ。

1) 生徒会および各生徒委員会の自主的・主体的活動を支援し、新入生歓迎合宿、体育祭、文化祭、卒業式など学校行事の企画運営に尽力するとともに、委員会活動を活発に推進した。

2) バドミントン部、フットサル部、美術部、テコンドー部など部活を奨励し活性化させてきた。

3) 前年度、地域の老人ホームや障害者施設、子ども食堂などのボランティア活動を継続し NPO や社会機関と連係を奨励した。

4) KIS の広報、社会貢献を目的にカルチュラルセンターを設置し、土曜日午後に外部の小学生、中高生、一般人を対象に韓国語と K-POP ダンスの教室を提供している。

3. 教職員のスキル向上、モチベーションアップに力を注いで行く。
 - 1) 授業、業務分掌執行、生徒指導等を不断に改善して行くための教職員会議、部長会議、担任会議、研修における検証と連携を強化してきた。
 - 2) 教務部、進路指導部、生徒支援部の機能を活発化させて行く。
また、各部連携・協力して、指定校推薦枠及び本校卒業資格で受験を認める大学を増やすべく、依頼文送付や資格審査の申し込み等を進めた。
 - 3) 進路指導部と担任が協力をして、社会に出た後の自分の役割を意識させる進路指導を行い、進路デザインを考えさせることを特に推進した。
 - 4) 課題のある生徒対策を一段強化し中途退学を抑えるように注力した。担任を中心に保護者との連携即応体制をつくり、より迅速な対応に向け、中等部会議、高等部会議を新設して教員間の連携を高め、スクールカウンセラーによる教員研修も継続実施した。
また、担任を中心に生徒支援部と共に、スクールカウンセラーの助言も含めて、保護者の協力のもと対応を行った。
 - 5) 2024 年度を振り返り反省点は、様々な取組みにもかかわらず前年対比で生徒数を減少させたことである。
4. 法人運営における課題解決に向け尽力してきた。
 - 1) 私立学校法改正に伴う令和 7 年度移行を準備し寄附行為の変更、評議員会と理事会運営の適正化を図ってきた。
 - 2) 一人が支える財政体質を改善出来ず多くの課題を残した。訴訟問題が学校運営に影響を及ぼし校地校舎の維持において危機的状況を招いた。2024 年度は大阪府の外国人学校特別補助金給付を辞退した。
 - 3) 財政基盤の改善が喫緊の課題であり、高等部無償化に伴う授業料一時負担の解消に向けた令和 8 年からの移行準備に対応しなければならない。